

議 事 (3) 令和2年度の発掘調査 (第19次発掘調査) について

1 第19次発掘調査の位置づけ、目的及び体制

(1) 調査の位置づけ

史跡等内容確認調査 (史跡としての整備活用に必要なデータを収集するための発掘調査)

(2) 調査期間及び体制

調査期間 (現地掘削) 令和2年9月14日から12月4日 (予定)

調査担当 とっとり弥生の王国推進課

調査箇所 第18次発掘調査区に隣接する西側区画 (図7)

調査支援 国際文化財株式会社

調査面積 90㎡ (表土掘削後調査面:6m×15m、掘削上端部は約693㎡:32.4m×21.4m)

(3) 調査の目的

青谷上寺地遺跡における弥生時代集落北エリアの実態を明らかにする。

①中心域 (弥生人の主な活動の舞台となった微高地) 北側における海際の地形を確認する。

②第18次発掘調査で確認した造成遺構の範囲及び目的に関する情報を得る。

③古墳時代から古代にかけての土地利用の様相を明らかにする。

(4) 調査計画

2カ年で発掘調査を実施。

令和2年度

表土掘削工事 重機を用いて現代造成土 (層厚約1.2m)、耕作土 (層厚約0.9m) を除去

上部層の調査 古墳時代中期から古代を想定する層 (耕作土最下層) の調査を実施

下部層の調査1 古墳時代前期前半期の造成遺構検出作業を実施

令和3年度

下部層の調査2 古墳時代前期前半期の造成遺構の構造解明のための調査を実施

(可能な限り弥生期の状況を解明するための調査を実施)

埋め戻し工事

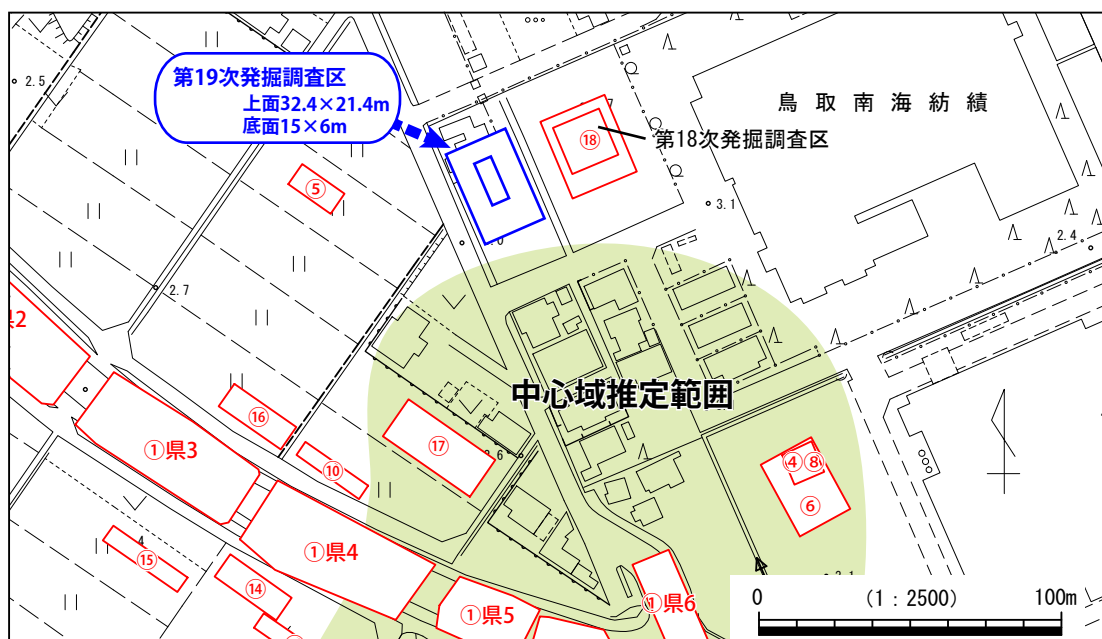


図7 第19次発掘調査区位置図

2 現段階での調査成果

地表面（標高約 2.8 m）から標高 1 m 前後まで重機で掘削し、それより下層については人力による掘削を行っているところ。

(1) 基本層序

基本層序は地表下 1.2 m 付近まで宅地造成時の客土、その下に 1 m 程度現代～古代・古墳時代後期の耕作土が堆積しており、耕作土直下に古墳時代前期の遺構面が確認できた。地表面から現代客土→耕作土→古墳時代前期遺構面という層順は、隣接する第 18 次発掘調査区と同じであるが、全体的に古墳時代前期遺構面の検出レベルは第 18 次調査区に比して 60～70cm 程度高い（図 9）。

(2) 遺構、遺物の検出概要

遺構面としては、第 18 次発掘調査区と同じく 2 面確認している。

第 1 面（図 8）：古代耕作土層（砂混シルト）上面で確認。生痕（植物の根跡）と考えられる鉄分が幅 0.7～0.8cm、長さ 10 m の範囲で帯状に伸びている状況を確認した（図 8：3 畦畔痕跡）。渡来銭（図 8 右）等が出土した上層（砂混シルト：中世耕作土層）における畦畔等耕作時の区画を反映した痕跡と考えられる。

第 2 面（図 10）：古代耕作土層直下で、黒色・褐色シルト混細砂及び黄褐色砂混シルトを基盤とする遺構面を確認。古墳時代前期前葉を主体とする多量の土器片とともにピット・土坑・集石を検出。また、排水用の側溝掘削時に検出した黄褐色砂混シルト上面より溝状遺構及び土坑を確認している。

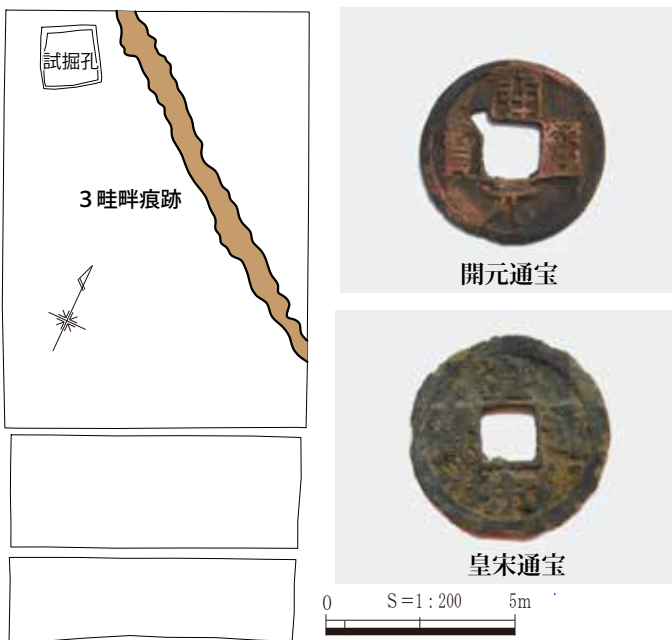


図 8 第 1 面遺構平面図及び中世耕作土層出土渡来銭

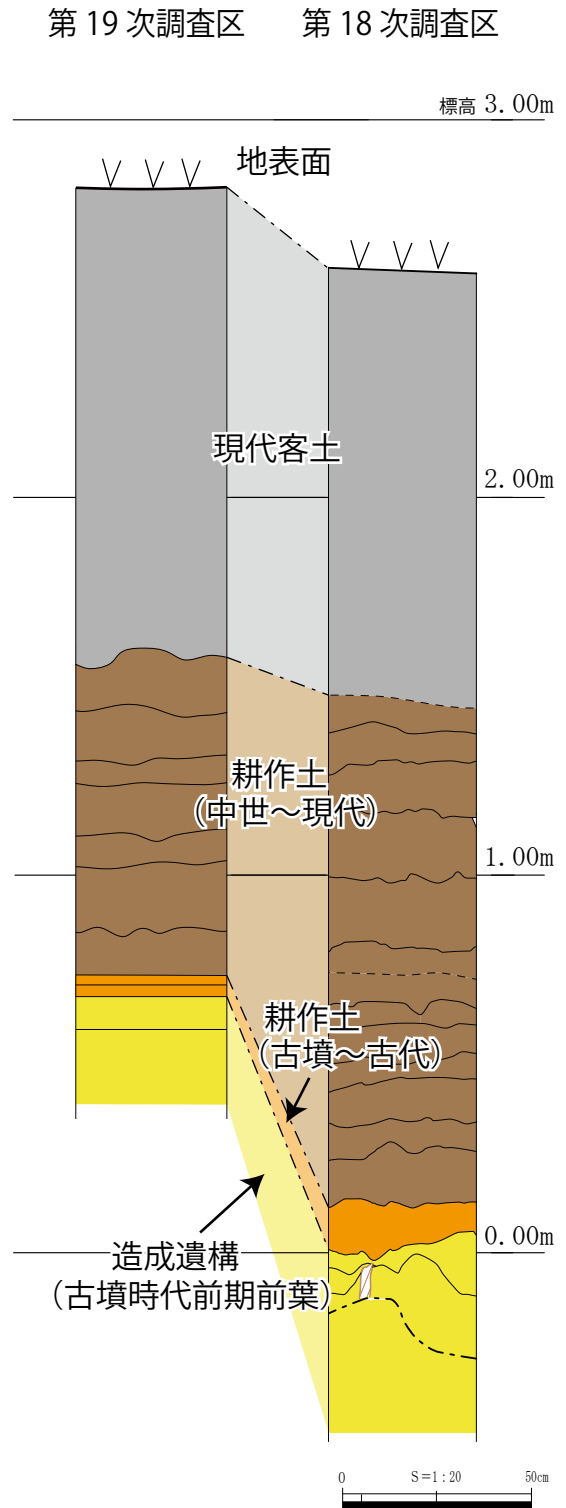


図 9 第 18 次・19 次発掘調査基本層序（北壁基準）

(3) 第2面の調査

第1面調査後、当初の計画では、排水用の側溝内の土層断面を参考にしつつ調査を進める予定であった。しかし、調査区北半部の側溝予定範囲において、第18次発掘調査の段階⑥盛土相当と考えられる黒褐色シルト混細砂層と同じく段階⑤盛土相当と考えられた褐色系シルト混細砂層を除去した時点で、段階③盛土相当と考えられる黄褐色系砂混シルト層上面で、複数の溝・ピット・土坑状遺構のプランを確認したため（図10右）、側溝掘削を中止して調査を進めている。現在、南半部の遺構検出作業を行っているところ。

基本的な土層の特徴は、第18次発掘調査の第2面下部で確認した古墳時代前期前葉の盛土層と類似しており、人為的な造成と考えられるが、段階③盛土相当と考えられる黄褐色系砂混シルト層について2か所でわずかな高まりが確認されている。

また、検出遺構は段階⑤盛土相当層（褐色シルト混細砂層）上面（12・13土坑）と段階③盛土相当層上面（11・14土坑、7・8溝等）とで段階差が認められる。現在のところ、第19次発掘調査区において、段階⑤盛土相当層と段階⑥盛土相当層との前後関係は層位的に確認できておらず、第18次発掘調査区の盛土との連続性の確認と併せ、今後の検討課題である。

確認できている第2面の遺構の帰属時期は、すべて古墳時代前期前葉であり、段階⑤盛土相当層上下面検出遺構の間に明瞭な時期差は認められない。

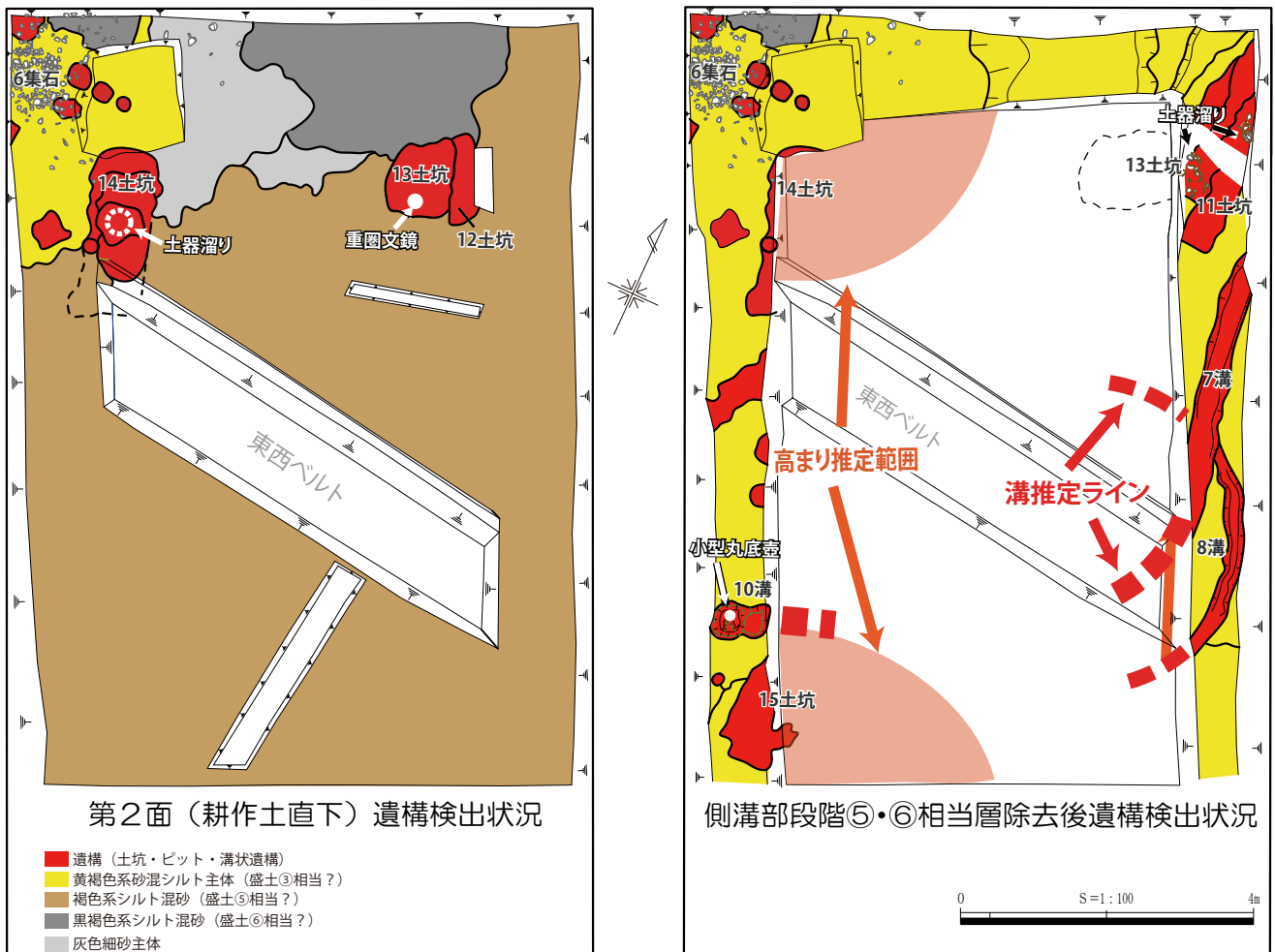


図10 第2面遺構平面図（調査区北半部）

(4) 第2面の主な遺構

○ 13土坑 (図10、写真3・4)

段階⑤盛土相当と考えられる褐色系シルト混細砂上面で検出された2.1 m×1.0 m以上の不整形な隅丸方形プランを呈する土坑で、東端部は12土坑に切られる。位置関係から東側側溝に一部断面がかかっていると思われ、当該断面には古墳時代前期前葉の土器の破片が集中し、土器溜りを形成する(写真4)。上面から小型の重圏文鏡(径37mm、厚さ1mm、重さ9.4g)が出土している。

○ 11土坑 (図10右、写真4)

東側側溝内で検出された2.2 m×0.5 m以上の方形土坑。一部が13土坑に切られる。段階③盛土相当層上面で検出。土坑北側上面で甕、鼓形器台出土。掘り込み面などを検討中。

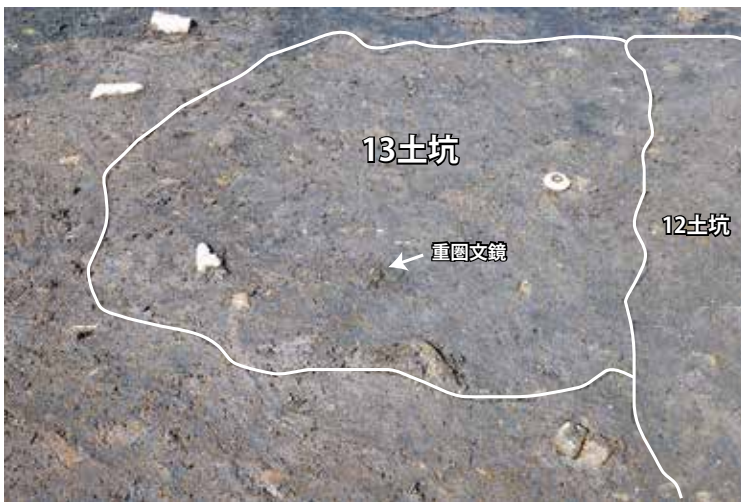


写真3 13土坑、13土坑出土重圏文鏡



写真4 11・13土坑遺物出土状況

○ 14 土坑 (図 10、写真 5)

段階③盛土相当層上面で検出された方形土坑。2重にプランが確認され、外側2.4m×1.0m以上、内側1.5m×0.8mを測る。外側のプランは掘形と考えられる。更に土坑中央部に0.7m×0.6mの不整形円のプランが認められ、その中に高坏(口径約35cm)、小型器台(口径約13cm)を検出した。南東隅部は段階④盛土相当層に覆われているため未検出。

○ 10 溝 (図 10 右、写真 6)

西側側溝、段階③盛土相当層上面において検出された溝状遺構。側溝内で確認された範囲は0.8m長で、中央部の段階③盛土相当層の高まり縁辺部(図 10 右)に位置する。また、溝内に0.4m×0.4mの方形土坑が検出され、埋土中より小型丸底壺(写真 6 右)が出土した。



写真 5 14 土坑検出状況



写真 6 10 溝遺物検出状況、10 溝出土小型丸底壺

○ 6 集石 (図 10、写真 7)

側溝の北西隅部において古代耕作土層直下、段階③盛土相当層上面で検出された集石。長さ 5cm ~ 15cmの垂円礫で構成される。集石周辺の段階③盛土相当層上面には少なくとも 5 基のピットが認められる。ピットの埋土は黒褐色シルト混細砂 (段階⑥盛土相当層?) 主体で、集石との関連性は現在のところ不明。

○ 7・8 溝 (図 10 右、写真 8)

東側側溝の段階⑤盛土相当層直下、段階③盛土相当層上面にて検出された 2 条の溝。7 溝が 8 溝を切っている。7 溝は幅 0.4 m、検出長 3.9 m、深さ 8cmの直線的な溝で、南端部において西方向 (調査区側) にややカーブし始めている状況が確認できる。

8 溝は幅 0.3 m、検出長 2.9m、深さ 7.5cmで、円を描きつつ調査区内に向かう (図 10)。どちらの溝も出土遺物は時期不詳の土器細片のみで、目立った遺物は出土していない。現在のところ性格不明。

(5) 第 2 面検出のその他出土遺物

○ 横櫛 (写真 9)

北側側溝、段階⑥盛土中より出土。現存長 5.3cm × 3.5cm。一木作りで歯を削り出している。段階⑥盛土上面には古墳時代後期の須恵器片が出土しており、帰属時期は要検討。

○ 甕形土器片 (写真 10)

10 溝埋土中より出土。出自について今後検討していく。



写真 7 6 集石及びピット群 (北西から)



写真8 7・8溝 (南から)



写真9 横櫛 (段階⑥盛土相当層出土)



写真10 甕形土器 (10溝出土)

4 まとめ

現段階での第19次発掘調査における成果を以下のとおりまとめる。

- ①第2面の段階（古墳時代前期前葉）において、第19次発掘調査区は第18次発掘調査区と同様、調査区全体に渡って造成が行われている。
- ②第19次発掘調査区では、段階⑥（あるいは⑤）盛土相当層を除去した段階においても木造構造物は検出されていない。
- ③第18次発掘調査区から第19次発掘調査区に向かって最大1m程高まっており（図11）、第18次発掘調査区で確認された木造構造物を伴う造成は、第19次発掘調査区における高まりを補強するためであった可能性がある。
- ④第19次発掘調査区で確認された造成土上には、溝や土坑・ピットなどの多数の遺構とともに、重圏文鏡、小型丸底壺など、祭祀に関わる遺物が出土し、当該地点の利用状況を示唆する。

5 ボーリングコア解析による周辺古地形の把握

昨年度より、第18・19次調査区周辺で採取されているボーリングコア解析作業を行い、古地形の復元を行うことによって今回の発掘調査で確認された造成遺構が、どのような地形にどのような範囲で広がっているのかの検討を開始しているところ。

ア. これまでの作業

【R1年度】

- 9～11月：H 29-1～3 ボーリングコアクリーニング、岩相写真撮影、注記作業
- 11月21日：辻委員調査指導
- 12月～2月：H 28-1・2 ボーリングコアクリーニング、岩相写真撮影、注記作業
- 2月19・20日：辻委員調査指導

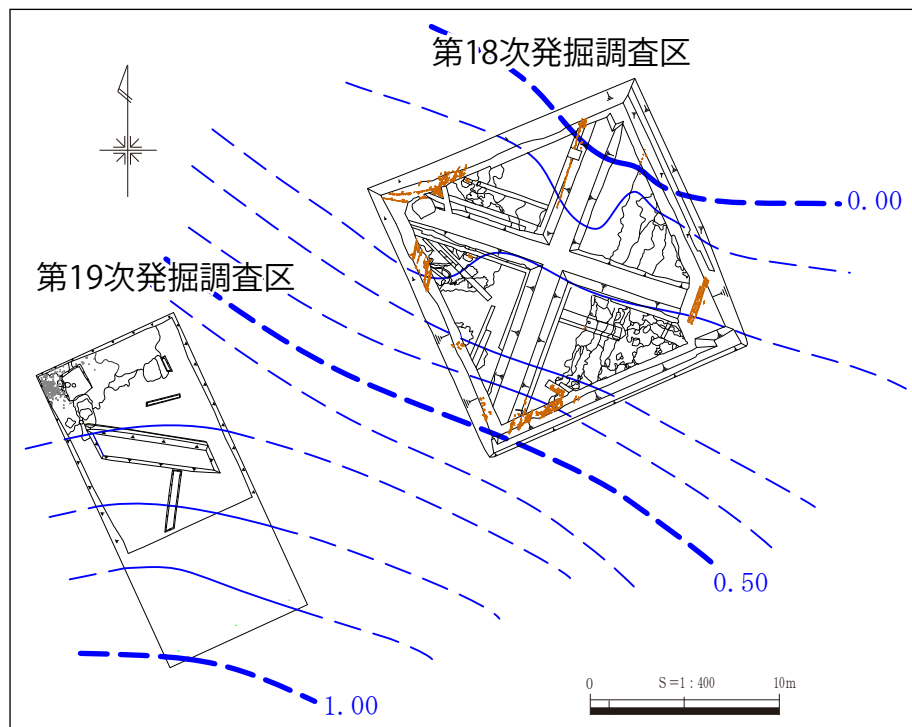


図11 第18次発掘調査区と第19次発掘調査区の周辺地形復元（古墳時代前期前葉）

3月～ : ボーリングコア注記作業

【R2年度】

4月～7月：ボーリングコア注記作業（10本分終了）

地質断面図案作成→素案作成済

イ. 今後の予定（令和2年）

- ・年代測定等自然科学分析実施
- ・辻委員調査指導
- ・ボーリング調査を適宜実施
- ・第19次発掘調査成果を加味した地質断面図案作成

6 今後の調査方針

- ・土坑等遺構の性格の把握：遺構の調査方針（遺構の掘削方針等）
- ・第18次発掘調査時に確認された盛土との整合性の確認：下層確認の方針
- ・造成の技術的系譜の検討：類例調査
- ・調査区周辺における古地形の復元：ボーリングコアの解析

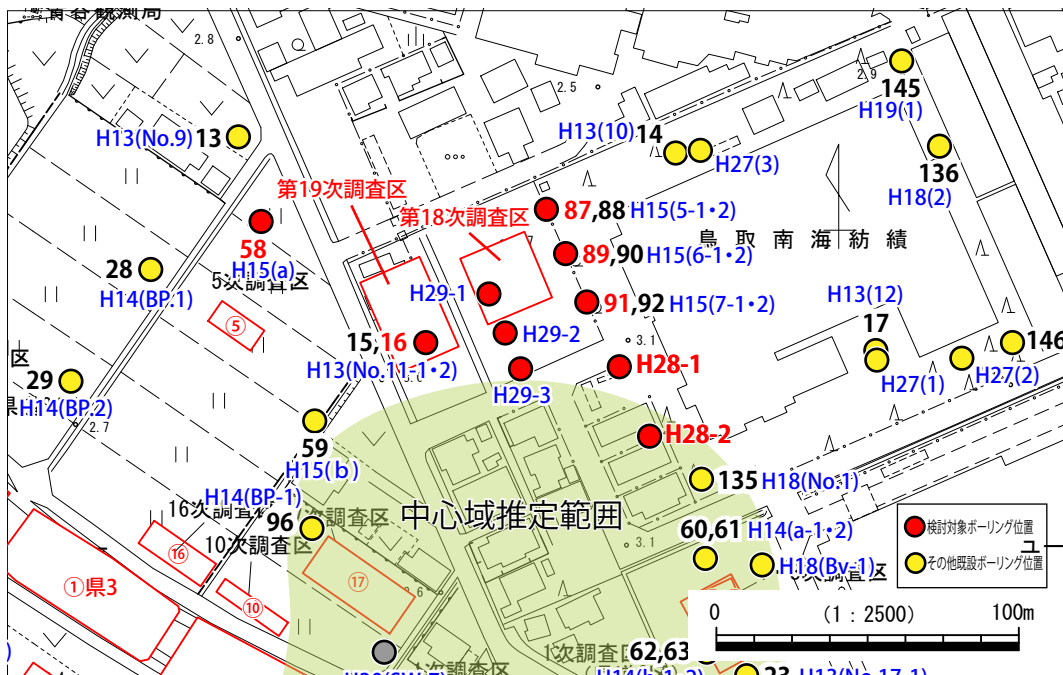


図12 第18・19次発掘調査区周辺ボーリング調査位置